

復興を歩む

vol.17

商業施設再開へ

創業は昭和28年。「村で一番古い食堂なのよ。63年になるのかな」。高橋ちよ子さん（飯樋町）はいつもの快活な笑顔で話します。「店の中は避難した時のまま」。日めくりカレンダーが平成23年の6月22日を留め、入り口のガラス戸に貼られた厚紙には、陽に焼けた文字が残ります。「計画的避難のため、本日21日をもって休業致します。（中略）原発収束後、再度、開店したいと思います」。

避難先の知人に支えられ、高橋さん夫婦が営む「ゑびす庵」は福島市荒井で営業を再開。変わらぬ懐かしい味を提供し、村の人の心をなぐさめ続けてきました。

今、義治さん・ちよ子さん夫婦は、村内での店舗再開に向けて、県の補助金を申請し、準備を進めています。義治さんは、店を戻す理由を、「だって生まれ故郷だからね」と言い切ります。「気楽に集まって話せる場所にできれば」。避難後、店を手伝ってきた息子の均さんも、調理師免許を取

得し、村内再開に力を合わせます。

ゑびす庵が申請する「福島県原子力被災事業者事業再開等支援補助金」は、今年度、県が創設したもので、被災した中小事業所の事業再開や新規事業への投資を補助します。二次募集が5月に、二次募集が8月に締め切られ、村商工会では合わせて20件の申請支援を行いました。村と村商工会は、7月にこの補助金の説明会を開催するなどして、制度の活用を後押ししています。

一方、国も、昨年8月に福島相双復興官民合同チームを立ち上げ、被災事業所を個別訪問。事業の再建、事業者の帰村を支援する他、事業承継や廃業などの相談にも対応しています。個別訪問の申し込みは、公式ホームページもしくは☎024(502)1117で受け付けています。

現在村内で継続・再開している51事業所をはじめ、村内で営業する事業所は、一つひとつが復興への大きな力となります。避難指示解除に向けて事業再開へ意欲をお持ちの方、検討中の方は、ぜひ一度、村復興対策課商工労政係☎0244(42)1620にご相談ください。

飯樋町の商店街の奥、飯樋小学校の校門に向かい合う「ゑびす庵」の店舗。早期再開を目指す高橋義治さん・ちよ子さん夫婦は、県の再開支援補助金を申請するため、村商工会に相談をしてきました。2人の間で談笑するのは商工会で復興経営支援員を務める加藤美紀さん。ゑびす庵の申請支援を担当します。一緒に店を切り盛りする息子の均さんも交えて、この日も打ち合わせが行われました。

※取材は8月16日